

No.創出-1-3	樹木による緑陰の形成
-----------	------------

技術の目的			
気候変動による気温上昇の適応策として、中高木を植栽し緑陰を形成することで、体感温度を改善するとともに、路面や壁面の温度上昇を抑制する暑熱対策を図る。			
導入する局面	創出	維持管理	利活用
適用空間	水域		陸域

**技術の内容・事例**

■技術の内容

- ・ 緑陰を効果的に形成するには植栽木の成長後の樹形や根の伸長を考慮して植栽配置や生育空間の確保を行う必要がある。
1. 公園・公開空地などの休憩スペースの緑陰形成例
    - ・ まとまったスペースの得られる都市公園や商業施設の公開空地などでは複数樹種の組合せや大径木を活用した緑陰が確保できる。
  2. 車道・歩道空間の緑陰形成例
    - ・ 街路樹やまちなかの歩道の緑は通行者の安全性の確保のためや道路構造令などにより、生育空間に制約がある。これらの条件を考慮し、緑陰の形成を図る必要がある。







3. 動かせる緑陰ベンチ

- ・ 動かせる緑陰ベンチとは、キャストターなどで移動可能なコンテナに樹木を植え付け、木陰と休憩スペースを組み合わせることで涼しい空間を形成する技術。樹木を植栽できない空間や人の多く集まる場所に設置することで簡易的に緑陰を形成し、夏季の暑熱対策として活用できる。<sup>出典2</sup>



表 動かせる緑陰ベンチに使用可能な樹種例<sup>出典2</sup>

コナラ  Quercus myrsinifolia	アラカシ  Quercus glauca
シラカシ  Quercus serrata	ケヤキ  Zelkova serrata

■出典・参考資料

- 1 環境省「まちなかの暑さ対策ガイドライン」（平成 30（2018）年）  
[https://www.env.go.jp/air/life/heat\\_island/guidelineH30.html](https://www.env.go.jp/air/life/heat_island/guidelineH30.html)
- 2 東京都農林総合研究センター「動かせる緑陰ベンチ管理マニュアル」（令和 2（2020）年）  
<https://www.tokyo-aff.or.jp/site/center/2033.html>

基本指針との関連

居心地がよく歩きたくなる 水と緑にかこまれたまち		水と緑を楽しみ 魅力とにぎわい にあふれたまち	水と緑が守り、育む 環境共生型のまち		緑が支える 防災・減災のまち
良好な 景観形成	暑熱対策	人の集う場・ 活動の場	都市の 水管理	都市の生物 多様性確保	防災・減災
◎	◎	○		○	

◎：当該技術の主要な機能、○：当該技術の副次的な機能

期待される効果

環境			防災			福祉・教育			地域振興		商業・観光振興					
ヒートアイランド減少の緩和	都市における生物多様性の確保	水質改善	災害（火災・水害など）の軽減	災害時の復旧活動・支援拠点	災害伝承・防災教育の場	健康増進・介護予防	緑の景観によるストレス軽減	子育て支援	環境教育・自然とのふれあい	コミュニティの醸成	地域の自然観・郷土愛の醸成	都市の魅力・競争力の向上	不動産価値の向上	観光・商業振興	労働生産性の向上	労働環境の改善
●	●					●	●					●	●	●	●	●

